



"TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT"

The service club of the YMCA THE Y'S MEN'S CLUB OF NISHINOMIYA



AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUB -- CHARTERED MAY 17TH, 1948

主 題 (2009~2010)

- ・国際協会会長 『The Power of One』 「一つとなる力」
Kevin Comming (Canada カダ)
- ・アジア地域会長 『The Power of One』 「一つとなる力」
スローガン 「Dreaming Asia, Loving Asia」
「夢見るアジア、愛するアジア」
Chon Byung-Koo (Korea)
- ・西日本区理事 『すべてのいのちを大切に」
「Love & Care for All the Living Things」
-いのち・平和・環境- -Life, Peace, Environment
鈴木 誠也 (神戸ポートワイズメンズクラブ)

・六甲部 部長 『希望の灯^{ほたけ} となろう』 「Be the Light of Hope」

大田 厚三郎 (神戸西クラブ) - 地域社会を励ます活動を実践しよう -

・西宮クラブ 会長 浅野 純一 『奉仕活動を行えることに感謝し、力を合わせて今一步活動の輪を広げよう』

2010年4月 西日本区強調ポイント “YMCAサービス・ASF” ASFの意義を再認識し、YMCAサービスを

2010年4月

743号 60周年

63期-10号

since 1948.5.17

スポンサークラブ
 大阪クラブ
 DBC
 近江八幡クラブ
 広島クラブ

クラブ主役員

会 長 浅野 純一
 直前会長 濱 浩一
 副会長(次) 馬場 一郎
 副 会 長 岩田 健司
 書 記 廣瀬 一雄
 書 記 岡田 佑一郎
 会 計 山本 常雄
 会 計 足立 康幸
 監 事 阪根 新
 監 事 小野 勲紘
 担当主事 三島 浩司
 六甲部代議員 山口 政紀
 部メネット主査 浜美智子
 区事務局員 小野 勲紘

2010年4月第1例会のご案内

日時: 2010年4月16日(金) 19時~21時

場所: 金豚本舗 夙川店 神楽町9-5

エルエスト夙川 1F Tel 23-1151

YMCA職員歓送迎会

ドライバー: 足立メン 岡田メン

1. 開会点鐘 浅野会長
 2. ワイズソング 一同
 3. 聖句朗読
 4. ゲスト紹介 浅野会長
 5. タイワークキャンプ報告 大下由貴リーダー
 6. 食前の感謝&会食
 7. 誕生日のお祝い
 8. Y's ニュース 浅野会長
 9. YMCA 報告 三島主事
 10. 閉会点鐘 浅野会長
- 会費 男性5000円 女性 4000円

徹底しよう! 只野準一 Yサ・ユース事業主任

(大阪土佐堀クラブ)

今月の聖句

『喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。互いに思いを一つにし、高ぶらず、身分の低い人々と交わりなさい。』

2章15~16節

ローマの信徒への手紙

清水 彬久メン 選

3月 例会出席状況 在籍会員数 19名

第1例会(3.19金) 第2例会(3.5金)

メ ン 13名 メ ン 6名

メネット3名ゲスト4名 メネット 0名

合計20名 (出席率89.5%) 合計6名

Happy Birthday To You

お誕生日おめでとうございます

10日 濱浩一メン 12日 丸山悦治メン
 22日 三島浩司メン 24日 足立完子メネット

【今月の言葉】 『YMCA サービス・ASF』

ASF アレキサンダー奨学資金

ご覧ください。URL: <http://www.kobeymca.or.jp/ys/nishinomiya/index.html>

会長メッセージ 浅野純一会長

2月の例会では鶴飼先生の国境を越えた、途上国の人々のための医療活動のお話をお伺いしました。本当に尊い活動をされていることに感銘を受けました。私など、とうてい及ばない行動力です。3月の例会では賀川豊彦の活動に触れました。世の中にはすごい人がいると思いましたが、そのような行動を支えているのはキリスト教なのでしょうか。そして、賀川督明さんのお話をお伺いして、賀川豊彦を支えた多くの人の献身的な活動を忘れてはいけなと感じました。

さて、待望の春がやってきました。中国の五行思想では春は青色、夏は赤色、秋は白色、冬は黒色で表します。青春、それは最も希望に満ちあふれた素晴らしい人生の一時を表しているように思えます。しかし、春の天候は暖かさと寒さが日ごとに変化し、「春一番」、「エイプリルウエザー」、「メイストーム」という言葉は、荒れる春の天候を表しています。私など青春時代など思い出したくないほど未熟であり、人生に対する不安や恐怖を感じていました。いま、年齢的には白秋から玄(黒)冬に近づいていることは承知していますが、「人生二毛作」という言葉を最近よく耳にします。私は今一度、青春の志をもって、定年後の新しい人生を送りたいと思っています。

ワイズニュース 浅野純一会長

(1) 5月の例会は、第2金曜日の5月14日(金)です。第3金曜日から移行してまいります。お間違えないように願います。

(2) 西宮クラブから広島の西日区大会には、現在、12名の参加が、また、横浜国際大会には6名の参加が予定され、参加を考えてられる方が数名いらしゃいます。数字はいずれもメン、メネット合わせての数字です。

平和を創り出すコンサート

高石ともや&須磨ウエストバンド
(ポートクラブ大野メン出演)

(1) 日時 4月18日(日) 午後6時~8時(開場 午後5時30分)

(2) 場所 うはらホール JR住吉駅南側 駅より徒歩2~3分

(3) 入場料 大人(中学生以上) 2,000円 小学生以下 1,000円

第一例会の様子

ドライバー:堤 一幸メン 小野 勅紘メン



賀川 督明さん

『痛みのシェア』

今月は実際の「賀川」に触れた例会を考えておりましたが、開館が4月からとのことで賀川督明さんに西宮YMCAにお越し頂きお話を伺いました。

昨年2009年は賀川豊彦が神戸貧民窟に献身に入って100年で、「賀川豊彦献身100年事業」が全国で展開されました。集大成として、活動拠点の神戸市中央区吾妻通に「新賀川記念館(友愛幼稚園、神戸イエス団教会含む)」が12月に完成し、4月の開館の準備が進められています。

賀川督明さんは幼少時は教会やYMCAでも

活動したが、その後は離れていた。自分自身に気づくところを発見し携わるようになった。豊彦と重なったのは6年。祖母ハルとは15年一緒に生活しハルを通じた豊彦像。

・賀川豊彦は1909年のわざわざクリスマスイブを選で、自分自身を神戸の町へのクリスマスプレゼントに見立てたのではないかと。写真を見ると、割と自分の活動を意識的にアピールしている。(撮影者の影など)
・賀川は多くの日記を残しており、好きな言葉に「雲の柱(雲柱社)」「火の柱」があり、また好きな絵も聖書の場面を雲の柱に導かれ

た自身の姿に准えている。

- ・最初は**救霊団**として活動した。賀川が一人で活動したように思われているが、**多くの資金支援者、ボランティアたちに支えられている**。救霊団の活動は今では一般的になった多くの事業を行っている。その合間に祈禱会などを行っている。(救霊団年報) 日記と対照してみると興味深い。支援者の一人が妻芝ハル(祖母)であり、その妹芝八重(医師)、また賀川が関東大震災で活動の拠点を東京に移した後を支えた武内勝は大きな支援者で、神戸生協の理事長、職業紹介所長や保育園園長や共同牛乳の経営もこなし、一人の人間が多くの事業に関わるのは神戸の伝統かもしれない。また医師間島豊は多くの場面に出てくる。この方はいつもポーズを取っていて、活動を意識して振舞っているようだ。当時は福祉と医療が一体となっていた証拠であろう。
- ・スラムの中には、と殺解体人、外国人、下流階層に落ちてきた人々が「**抑圧の連鎖**」を生み、それが絡み合っていて貧困の底辺を構成していた。
- ・数多くの失敗もあったが医療や福祉から救貧に取り組んだ。そのころ最初に始め地域福祉は拡大して現在に至っている。その**代表的なものが44もの保育園である。(教育)**
- ・その後大阪の共益社(消費組合)からスタートした**生活協働組合**に力を入れていく。ネットワークで助け合う組織を作る。灘生協(地域福祉)と神戸生協(労働運動が全身)を立ち上げた。(その後コープ神戸として合併) 今もコープには「中心思想七項目」の額が飾ってある。この中で最後の「**教育中心**」が賀川の最後の大きな事業であった。
- ・**労働組合運動**は友愛会からスタート。このころから宗派を超えた人とも行動を共にした。しかし三菱・川崎の労働争議に敗北するが、教育中心の証しに労働者が自立出来るように**大阪労働学校**を設立する。**農民組合**も労働組合運動と併行していく。杉山元治郎氏もその一人。神戸YMCAで決起大会を開催している。当時は神戸Yは豊彦の周辺事業を多く共同で行っている。農民福音学校に芝八重は診療所を運営する。(保育園と診療所を併設) 妹や母親まで引き込んで協力した。

- ・**関東大震災後**は神戸YMCAや東京YMCAと共同で活動した。**集合住宅**を試行して今日の基礎となっている。スラムに一斉に建設されていく。同潤会住宅もその一つ。
- ・戦前、戦中、戦後を通じて**平和運動**に関わっている。(世界連邦)
- ・著作では多くの書物を残している。**著作は賀川の資金の根幹**であった。しかし、問題となる差別的なものもあり、そういったものはきちんと向き合わないといけない。活動にはどこからも援助を受けないで自分たちで稼いで充てていた。今の福祉は上から保障されるのを待つ形。この100年で大きく変わってきた。事業資金の中心。賀川の講演を筆記した「5人のペン」という集団が支えた。
- ・いつも平和でありたい。雇用を創出したい。**教会活動は活動の中の「宗教部」の位置付**。(イエス団が宗教部)活動の中に教会があるという位置付。そういった様々な活動を集団で行うというグループであった。色んな取り組みで社会を良くしていきたい。
- ・香川県の賀川家のダイニングRにあった掛け軸の言葉を紹介された。「**愛する者よ、我ら互いに相愛すべし。愛は神より出ず、おおよそ愛ある者は神より生まれ、神を知るなり。神は愛なり。**(ヨハネの手紙一4章7節 - 8節) 今見て本当にこれが大切だと思うようになった。賀川家では朝食時の毎日聖書を読む家庭礼拝は欠かせなかった。学生時代朝までマージャンをしても一旦中断して家庭礼拝は欠かせなかった。各地での礼拝には聖書や讃美歌も少なかったので大きな紙に社会問題も書いて礼拝説教に取り込んだ。現実に生きることは信じて生きることと同一視した。きっちり訴える姿勢。こういったメッセージは世界に広がっている。
- ・キリスト教中心というのではなく、宗教や考えた方の領域の違う人々が同じ目的に向かって、どう取り組んでいっていいのか、今後大いに大切に、YMCAの三位一体の上にある**スピリチャリティーを目指したい**。環境問題、戦争など多くの問題があるが、**プログラムの同時性や総合性**を大切にしたい。
- ・総合性は評価され難い。皆様で賀川記念館をお支え頂きたい。

奇しくも、日本YMCA同盟発行の機関紙「THE YMCA」4月号の巻頭に先ごろ記念講演で日野原重明先生、今井神戸YMCA顧問と鼎談をされた神戸大学野尻武敏名誉教授が「よみがえる巨人 賀川豊彦」と題して的確な論説を寄せられています。

曰く、『20世紀を代表する巨人である賀川の業績は「資本主義」でもなく「社会主義」でもない「第三の道」すなわち「人格」としての人間救済の共助組織(共同組合など)を基本とした「友愛」の社会の実現に貢献したという。現在我々が享受している恩恵の多くは賀川の時代にその礎が築かれたと言われる。戦争や災害、体や心の病気や貧困、偏見と差別に苦しむ人々がいる。それは決して前二者では救えないが、第三の道で救える基礎が育まれた。』

これは芦屋クラブの島田先生のご専門でもあるが、P・F・ドラッカーが結論づけたポスト資本主義社会の未来予想として、共助を目的とした民間団体(NGO、NPO)の存在を示唆している。こういったNPOにも属する活動としてワイズメンズクラブも位置付けられよう。

賀川は試行錯誤を経て究極には、100年の古から自由と平等と友愛の世界実現のために尽くしたといっても過言ではない。因みに06-07年度森本榮三理事期の主題「一人は皆のために、皆は一人のために」は賀川豊彦の「万人は一人のために、一人は万人のために」(コープ神戸の合言葉)からの言葉です。

参加者は浅野、足立、岩田、小野、清水、堤、長井、馬場(一)、瀧、藤原、丸山、三島、山口の各メン。廣瀬、山口、宮地の各メネット。メイクアップは阪根、馬場(貴)、廣瀬、山本の各メン。(出席率89.5%) ゲストは賀川督明さん、ピジターは西日本区理事キャビネットから鈴木理事(神戸ポートクラブ)、上野書記(芦屋クラブ)、柏原事務局長(同)、合計20名。

<備考>

「新賀川記念館」は4月17日(土)開館予定ですが、4月6日(火)先立ってプレオープンがあり、毎日テレビでその様子と賀川豊彦の足跡が紹介されました。館長はお

孫さんの賀川督明氏、西宮クラブ次期会長の馬場一郎さんが付属の友愛幼稚園の園長と兼務で記念館副館長を努められます。



六甲部 第二回評議会に出席しました

山口政紀メン

3月20日(土)の午後、神戸YMCA三宮会館チャペルで開催された評議会は大田厚三郎部長(神戸西)の精力的な活動の詳細な中間報告と会計報告があり、審議され承認されました。各主査からの事業報告も承認され続いて各クラブ会長からも活動報告がありました。総勢44名の参加で西宮クラブからは浅野会長、廣瀬書記、足立会計と長井メン、小野メン、山口直前部長が出席しました。次年度の安行英文部長からは役員候補者の紹介がなされ準備を進めておられます。

報告は今期も多く発生した災害支援への街頭募金や西日本区理事サポート、新入会員研修など充実したものでした。

我が西宮クラブの長井慎吾メンは「神戸YMCA創立125周年」の実行委員長として出来たての記念事業協賛のお願いパンフレットを配り「振込用紙」に愛情をこめて下さいとアピールされました。

第二部の「EMC研修会」では福原吉孝 EMC主査(芦



屋)の進行で各クラブ会長によるパネル討議に続いて廣井武司 EMC事業主任(京都

プリンス)の講演がありました。丁寧な語りは若い年代をワイズに誘う苦勞と例会の好い準備に留意することなど示唆に富む良い研修でした。第三部の懇親会ではあと三か月の年度の締めくくりと広島西日本区大会、横浜国際大会への参加奨励でお開きとなりました。

西日本区だより-12

小野勅紘西日本区理事事務局スタッフ

「折りづるラン」第3便



東本願寺前を友情参加で併走する高石ともやさん(左)



草津駅前でびわこ部の皆さんの出迎えを受ける



次期会長・主査研修会の早天礼拝で奨励する長井潤メン

1月17日(日)阪神淡路大震災15周年の日、神戸YMCAをスタートした「折りづるラン」はランナー大野勉メンの体調とスケジュールを基本に順調に進み、西は岡山の倉敷、東の方は3月6日高石ともやさんの友情参加で京都YMCAまで到達。

4月4日(日)は折りづるランも3か月を過ぎ、東は滋賀県に入った。14時に京都YMCAを出発。大野メンに加え、三科メン(京都東稜ク

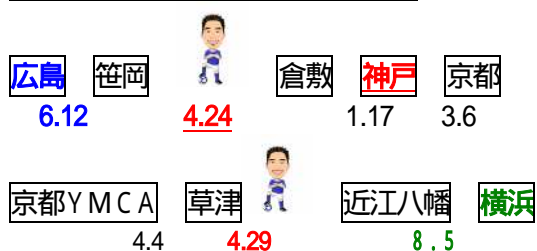
ラブ)と野田メン夫妻(京都ウェストクラブ)の併走者と伴奏者を得て桜で満開の琵琶湖畔を只管東に向った。京都・滋賀県境の山越えという難所を経験し、草津駅には予定より30分遅い17時のゴール。草津駅前で浅岡次々期理事はじめびわこ部の皆さんの出迎えを受けて「予想以上にきつかった」と大野メン。

駅のすぐ近くでの草津クラブのお花見例会に招かれ楽しい一時を持ちました。会場は提灯作家で有名な粟津メンの提灯製作工房をお借りしての例会。西隣は同じ草津クラブの杉江メンのお宅。ギター演奏や大野メンの歌のひと時を持ちお開きとなりました。帰りには杉江メンのお庭に鈴なりのレモンをお土産に戴きました。

3月の西日本区はいよいよ纏めの時期。3月13日(土) - 14日(日)にはチサンホテル新大阪で恒例の会長・主査研修会が持たれ次期に備え熱心な研修の時でした。西宮クラブからは馬場一郎次期会長、浅野純一次期広報主査が参加。終了後新旧理事キャビネットと横浜国際大会HC委員との対策会議が行われ、登録状況を毎週お知らせすることになった。広島実行委員会の尽力もあり3月末現在660名の登録。

3月26日(金)広島での西日本区大会実行委員会に参加。準備も佳境に入り、広島の皆さんの熱意に感謝。6月13日西日本区大会終了後には広島・西宮・近江八幡の3クラブ合同例会が現地で開催予定。

折りづるランナー(大野勉)の行程



「平和を作り出すコンサート」

4月18日(日)17時30分~、JR住吉駅前「うはらホール」にて、入場料2000円(神戸ポートクラブまたは六甲部各会長よりお求め下さい。)

西日本区大会を支え平和を作り出すコンサート開催。京都で併走いただいた高石ともやさんとのご縁でコンサートを持ちます。

主催:神戸ポートクラブ主催、後援:ワイズメンズ
クラブ六甲部&神戸YMCA後援。

[西日本区大会と国際大会への登録を!](#)

西宮YMCA ファミリプログラム

が行われました。

浅野純一 会長

プログラムは西宮YMCAの会員活動の一環として
年2回実施されています。今回は3月22日の春分の
日の振替休日の日に、西宮南部をウォーキングしました。
15家族、大人22名、子ども23名の多くの方に参
加頂きました。ワイズからは私と、岩田、小野、廣瀬、
長井の各メンが参加されました。長井メンは娘さんを
連れて参加です。



当日は晴
れとの天気
予報で、ま
ずは無事プ
ログラムは
実施できる
だろうと思
ってました

が、前日のお彼岸の中日、黄砂がひどく、プログラム
当日の天候を大変心配しました。しかし、心配は杞憂
に終わり、少し寒かったのですが、良い天候の元でプ
ログラムを行うことができました。

10時にYMCAに集合、参加者の自己紹介、廣瀬
メンのいつもよりは少しおさえた廣瀬節の西宮市の話
がありました。そして、西宮神社に向かって歩き出し
ました。神社では5つのクイズが出されました。神社
から御前浜に、そこで昼食を取り、たこ揚げやブーメ
ランなどで遊びました。浜では本当に楽しく過ごせま
した。午後2時頃にYMCAに帰り、サポートプログラ
ムのOB会の諸君が作ってくれた豚汁とフルーツポ

ンチをいただき解散しました。今回はスタッフやリ
ーダーの努力によって大変良いプログラムができた
ました。

さらに反省を重ねて次回も充実したプログラムを行
いたいと思っています。

なお、ワイズのメンバーは2時から行われた、元
町大丸前での「チリ地震被災地救援の募金活動」に
遅れて参加しました。参加の皆様ご苦労様でした。

水の流れのままに28

(俳句) 山野 直行(小野勲流)

・母の手が 背中に残りし **ふら**ここに

(いつの時代にも母はありがたいものである。特に昔公園のブランコに乗って母1背中を
押しもらった感触はいつまでも残っている。「ふらここ」とはブランコ
の古い言い方。そんな古のことである。)

・昆布茶飲み **臙**差し出で 源氏見る

(昆布茶を飲んでいると臙昆布を連想する。その臙というと源氏物語に出てくる「臙月
夜の君」に行き着く。彼女は源氏物語に出てくる女御で、せっか
くお后になれるところを、源氏と密会してその幸運も叶えられなかった。臙
から源氏を気取ってみても所詮全ミスキャットかな?)

・臙欠け ゆるゆる解けて 御寝(およん)なる

(臙月が欠けてきて半月から三日月に向っている。ゆっくり襦に向けて衣
を解いているようだ。お月様ももうお休みになるのかな?)

西宮YMCA保育園だより

三島浩司メン(保育園園長)

(西宮YMCA保育園だより3月号より)

3月の主題:大きくなった

3月。いよいよ進級、卒園の季節を迎えます。入園時には、
おうちの人と別れるのがつらくて泣いていたお友達も、
今ではお友達や先生達と一緒に保育園での生活を存
分に楽しんでいます。心も体も本当に大きくなった子
どもたちの姿に喜びを感じるとともに、保護者の皆さんや
保育者にとっては、「親離れ」をしていく姿に少しさび
しくなったりする季節でもあります。

小さな子どもたちのお兄さんやお姉さんとして、優しく
てたくましくて頼りになる存在となったゆり組の子
どもたちをはじめ、すみれ組、ひまわり組、ちゅうりっぷ組、
たんぼぼ組の子どもたちもそれぞれに自分よりも小さな
お友達のことを気にかけてあげる姿がいたるところで見
られます。すずらん組の子どもたちも、4月に新しいす

ずらん組の赤ちゃんたちが入園してくると、お兄さん、お姉さん振りを大いに発揮する準備を整えているように思います。ひとりひとりの子どもたちが、それぞれのペースで無理なく「親離れ」をしていけるように、保護者の皆さんとともに子どもたちを支えていくことができればと思っています。

「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である」という言葉の少し後に、「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ。あなたがたが出かけて行って実を結び、その実が残るようにと、」という言葉があります。子どもたち、保護者の皆さん、そして、保育者もすべて、イエス様のぶどうの木の枝となって連なり、豊に実を結ぶようにとイエス様ご自身が西宮YMCA保育園に集めてくださいました。

2010年4月、今のゆり組の子どもたち18名が小学生になり、新しい一歩を踏み出します。また、西宮YMCA保育園の第1回卒園児5名が中学生となり、更なる一歩を踏み出します。園に残る者、また、園を巣立っていく者すべてが「神様と人から愛され、隣人のことを思いやる やさしい心」を持った者として、イエス様のぶどうの木の枝となって豊かな実を結ぶことができるように祈り続けたいと思います。

3月聖句：わたしはぶどうの木 あなたがたはその枝である。

(ヨハネによる福音書 15章5節)



西宮YMCA 三島浩司メン

4月、西宮YMCAではこれまでの用海に加え、浜脇の留守家庭児童育成センターの運営を西宮市より受託し、スタートします。また、来年4月には、西宮市津門川町で新しい保育園を開設することとなりました。ここ数年、西宮では予備校高校生科の終了やサッカーグラウンドの縮小などが行われてきましたが、また新たな形で地域への奉仕の技が広がりがつつあります。このところ毎日のように新聞やテレビで報道されている児童虐待。また、陰湿ないじめの増加や自殺者の増加。人の、そして何よりも子どもたちのいのちが脅かされる今の社会に僅かでも光をあて、多くの人々、子どもたちのいのちが光り輝くことを願って一つ一つの業を成して行きたいと思えます。ワイズメンズクラブの皆様も子どもたちの未来のためにこれまでと変わらぬご支援、ご協力くださいますようよろしくお願いいたします。

1. サポートプログラム 15周年記念講演会、開催

2月28日、元町のよみうり神戸ホールにおいて標記の

会が開催され、およそ250名の聴衆を集めました。これは1995年より神戸YMCAが西宮ランチで、学習障がい児のプログラムを開始したことによる15周年ですが、実際はもう少し前から準備や検討が始まっていました。当時から指導を仰いでいる大阪教育大学名誉教授の竹田契一先生は今も中心的な指導者として、神戸のみならず関西地区YMCAのサポートプログラムをリードしてくださっています。記念講演会は言語聴覚士の中川信子先生の「コミュニケーションの力を育む」という基調講演と竹田先生のコーディネイトによるシンポジウムで、西宮での開設以来、指導をしてくださった西岡有香さん、アトリエの藤井昌子さん、吹田教育センターの森田安徳さん、そして水野総主事がパネリストとして、それぞれの立場で15年を振り返り、現状を報告し課題を共有する時となりました。全国に先駆けて民間でのサポート機関として果たしてきた役割を評価し、今後に繋げる会となりました。

2. 新年度を迎えるに当たって

1) 新年度への願い

2010年度の年間聖句は「主を待ち望め 雄々しくあれ、心を強くせよ。」(詩編27:14)が選ばれました。「待ち望む」をテーマに一年を歩みたいと願っていますが、「待つ」とは未来を期待すること、願うこと、祈ることです。目に見えない神の働きを祈り、願い求めることが「待つ」ということと心得たいと思います。

2) 全体方針

青年会、財団法人、学校法人、社会福祉法人のそれぞれの方針が掲げられています。常議員会、各理事会などで決議された方針に従って、一年の歩みをスタートします。特に、2010年度は創立125周年への準備、ネクストビジョンの策定が重要なことですが、財団法人の事業活性化、また公益財団法人移行後のファンドレイジングなどが大きなテーマとなります。

3) 年間行事予定

2010年度は神戸YMCA創立124周年で、プレ125周年としての歩みを進めます。神戸YMCAの全体行事も例年通り、数回予定されています。あらかじめ、ご予定ください。

4) 全体組織・人事配置

新年度の大きな組織変更はありません。コミュニティサービスセンターが担当する指定管理業務において神戸市立西体育館の運営は3月末で終了と

なりました。しかし、4月から新たに西宮ランチが担当して、西宮市立浜脇小学校内における学童保育事業を指定管理者として運営することとなりました。

3. 第3回青年会常議員会報告創立125周年の準備状況

3月15日、神戸キリスト教青年会の第3回常議員会が開催されました。今回は神戸YMCA全体、及び3法人の2010年度方針について協議がなされ、様々なご意見をいただきました。特に厳しい財務状況にある財団法人について積極的な意見が多く出されました。また、創立125周年やネクストビジョンについて報告がありましたが、特に125周年に関しては常議員会の下に実行委員会が組織されて準備が進められている状況が報告されました。

4. 第27回タイ・ワークキャンプ、開催

3月12日より25日まで、第27回を数えるタイ・ワークキャンプが開催され、各リーダー会からのリーダーを中心に9名が参加し、無事帰国しました。引率の清水浩一さん(三田センター・主事職)と共に10名がタイ・チェンマイ郊外の農村でのワークを行いました。数年前から、タイのコースと神戸のコースだけのキャンプではなく、アメリカ・シアトルYMCAから、またラオスからコースを加え、多国籍のコースによるワークとなっています。今回もまた同様に多くの若者らがタイ北部の農村でのワークを通して、国際交流と奉仕の実践に関わり、多くの貴重な体験をすることができました。今年はタイでも問題となっている発達障がい児のための学習室建設が目的でした。

このワークキャンプについては、ワーク資材について国際協力募金から、またワイズメンズクラブ六甲部の各クラブから各参加者一人ひとりに多大な支援がなされていて、改めて感謝申し上げます。このワークキャンプの報告が、5月8日の創立記念日礼拝の後に参加リーダーによってなされますので、是非、ご参加ください。

5. 財団法人の年度末

財団法人の各部門においては、3月上旬から様々な修了のセレモニーをもって、2009年度の活動を締めくくっています。特に学校事業においては、3月10日に日本語学科が、また3月11日には日本語学校と専門学校が、また12日に神戸YMCA高等学院が卒業式を行い、それぞれの進路に向かって、若者たちがYMCAを巣立っていきました。また、各クラスでは修了式が、また各ランチのリーダー会では卒業リー

ダー感謝会が開催され、大きな感動をもって活動に区切りをつけています。

春休みには余島キャンプやスキーキャンプ、また講習会などが進行しています。新年度方針や予算などを審議するために3月29日に理事会、評議員会が開催され、新年度を迎えることとなります。

6. 学校法人の年度末

学校法人においては、3月15日に神戸YMCAちとせ幼稚園で保育修了式が行われ49名が卒園し、16日には西神戸YMCA幼稚園において卒園式が開催され、106名の園児が卒園していきました。それぞれに晴れ晴れとした式となりましたが、多くの保護者のカメラやビデオに囲まれながら、子どもたちの自信に満ちた笑顔が印象的でした。

学校法人でも、3月23日に理事会・評議員会が開催され、一年の歩みを振り返ると共に、新年度の方針、予算などが決議されました。来る3月25日(木)から4月8日(木)までの2週間、神戸新聞社ギャラリーにおいて、

7. 社会福祉法人の年度末

社会福祉法人においては、3月13日にYMCA保育園で卒園式が挙行され、31名が、18日には西宮YMCA保育園で卒園式が行われ、18名の年長児が卒園していきました。また、今年度に開設された第1回の卒園式を迎えた西神戸YMCA保育園では17日に開催され、7名の記念すべき第1期卒園生を小学校に送りました。それぞれに温かく、微笑ましい卒園式でしたが、とりわけ保育園ではお母さんの涙が印象的で、数年間のご苦労がしのばれました。社会福祉法人も3月24日に理事会・評議員会が開催され、同様に一年を回顧し、新年度の方針・予算が決議されました。新しい年度は西神戸YMCA保育園が開園し、より多くの園児を受け入れることとなりますが、4月1日には入園式が行なわれて、切れ目なく新年度に突入していきます。この3月末をもって、小寺隆志主事(現西宮YMCA館長)が、西神戸YMCAへ異動されます。代って、山根泉主事(現三宮ランチ主任主事)が新西宮ランチ館長に、また、大塚雅人主事(現岡山YMCA主事)、西野みどり主事(新採用)、また、保育園では、門脇加奈さん(元西宮YMCAリーダー)が保育士として加わります。

8. 今後の予定

1) マザー・テレサ生誕100年記念写真展
～マザー・テレサは生きている～

日時：3月25日～4月8日
11:00～19:00

場所：神戸新聞社ギャラリー
(JR神戸駅徒歩5分)

入場：無料

2) イースター早天礼拝

日時：4月4日 7:00～8:00

場所：神戸東遊園地(市役所南)

*雨天は神戸YMCA

説教：「死の先に何を見る」

藤原寛人牧師(日本基督教団神戸北教会)

3) 平和を創り出すコンサート

日時：4月18日18:00～20:00

場所：うはらホール
(神戸市立東灘区民ホール)

出演：高石ともやさん・須磨ウエストバンド

入場料：大人2,000円、小学生以下1,000円

4) 創立記念日礼拝

今年は124周年。125周年を来年に控えて東京から坂口順治先生をお招きして礼拝のときを持ちます。是非、ご出席ください。

日時：5月8日17:00～18:30

場所：神戸YMCA チャペル

メッセージ：坂口順治さん

(東京YMCA名誉会員、元立教

大学教授、元平安女学院大学学長)

奨励題：YMCAの歴史を支えてきたもの～YMCA運動史編集から見たもの～

リーダー会だより

しんざわ みく

西宮・宝塚YMCAリーダー会 新澤 未来さん

いつも西宮・宝塚YMCAリーダー会をご支援いただきありがとうございます。

3月13～14日にはトムソーヤのファイナルキャンプがありました。滋賀県のマキノ高原へ行き、広い高原の中で動き回ったり、端に残った雪で遊んだり、縄跳び大会をしたりしました。夜はみんなで銭湯へ行き、枕をくっつけ合って一泊を楽しみました。卒業する6年生の卒トム式では6年生のしっかりとしたあいさつに彼らの成長をしみじみと感じられました。これからも子どもたちのために頑張っていきたいと思えます。

3月10日には感謝会・感謝礼拝を行いました。13人の卒Yするリーダーに感謝の気持ちを精一杯伝えて、送り出しました。

3月20日にはファミリープログラムをワイズの方々と行いました。天候にも恵まれ、たくさんの親子の笑顔を見ることができました。

そして、来年度のリーダー会の年間目標は『生き生き輝け!西宮YMCA』です。2010年度も心機一転!リーダー会一同頑張っていきたいと思えます。ご支援よろしくお願ひします。

ワイズメンズクラブ国際協会西日本区

理事通信

(4月号より抜粋加工しております)

理事主題 **-すべてのいのちを大切に-**
“Love & Care All Living Things”

第13代西日本区理事 鈴木 誠也

気候の変動とともにまだまだ肌寒い気候ですが、各地では桜前線が北上中、花の開花が早まっています。桜まつり等へのご奉仕を予定されているクラブも多いことでしょう。

例年より1か月早い国内送金へのご協力ありがとうございました。おかげ様で、2月末の期限内に目標を超える金額を国際協会へ送金することが出来ました。皆様のご協力に感謝いたします。加えて、地域奉仕事業委員会の賛同を得て、緊急災害支援として、CS基金からハイチとチリに合計100万円の募金を送り、さらに各部、各クラブからはYMCAを通じての貢献の報告も受けております。

3月13-14日には次期会長・主査研修会がLD委員会のご奉仕により、実りの多い研修を行いました。仁科次期理事の主題と方針が西日本区全体に浸透され、次期に向けて順調に準備が進んでいます。

今期も残すところ3か月となりました。6月の西日本区大会が我々の集大成となります。理事テーマ「すべてのいのちを大切に-いのち・平和・環境-」が、核兵器廃絶から世界の



平和を作り出す一助になれば素晴らしいことです。その成果は部長報告、事業主任報告と表彰を待って期待したいところです。

また、これからの3か月間は、会員増強の最後のチャンスです。メンバー2000名に向けてのEMC活動は一進一退が続いています。会員増強には増やす以上に、減らさない努力が大切です。京都トゥービークラブが、新クラブの設立総会を5月27日に予定されています。続くエクステンションを期待いたします。

さて、皆さんは広島西日本区大会と横浜国際大会への登録はお済みでしょうか？先日登録状況をお届けしましたが、[クラブの会員の皆様に登録促進をお勧め下さいますようお願いいたします！](#)

4月には、各YMCAが新年度を迎え、連絡主事の異動も予想されます。交代に際してはロースターへの異動登録と併せて、引継ぎの方もよろしくお願いいたします。

「すべてのいのちを大切に」弱い立場にある人々を覚えて「祈り、励ます」国際協力募金(ハイチ・チリ大震災被災者救援募金)やEF・JWFファンドにも目を向けて頂くようお願いいたします。



トピックス・とびくす23

廣瀬 一雄メン

小生は現在動物行政の仕事に携わっておりますが、環境省が平成19年3月に発行した“動物の保護及び管理に関する法律のあらまし”という小冊子から前回までの「動物の保護及び管理に関する法律」とは、に続いて紹介しましょう。

4 動物取扱業の規制

1 規制を受ける業種

業として、動物の販売、保管、貸出し、訓練、展示を行う場合は、業を始めるに当たって登録をしなければなりません。インターネットなどを利用した代理販売やペットのシッター、出張訓練などのように、動物又は飼養施設がない場合も規制の対象になります。

実験動物・産業動物を除く、哺乳類、鳥類、爬虫類が対象です。

編集後記 プリテン委員長 廣瀬 一雄

今月、4月のプリテンも前月、前前月のプリテン同様に発行が遅くなり申し訳ありません。早々に原稿をお送り下さいました方、皆様にお詫びいたします。

今月も詳細の例会報告となりましたが是非じっくりと御高覧ください。

4月の歓送迎会では小寺館長が西神戸YMCAへ、三宮の山根主任主事が西宮ランチ館長として赴任されます。

御両人のさらなるご活躍を期待いたします。

われらの浅野会長も第四コーナーを廻るところまでやってまいりました。

会長二期作ということで、残す三カ月の任期と次期部広報主査のお勤めを励んでください。

P S 音を重ねる日々は心を重ねる日々の一ひがしの ようきさんのご回復を祈念いたします。